第９課　聖霊と教会

【暗唱聖句】

「平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めなさい。体は一つ、霊は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです。主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ」エフェソ4:3～5

【今週のテーマ】

教会が存在し、またこれからも存続していけるのは聖霊のおかげです。聖霊の働きがなければ教会は存在することができません。

【日曜日　聖霊は私たちをキリストに結び付ける】

いま世界総会をはじめ教団、教区では、天とのきずな、教会のきずな、地域とのきずなの三つのきずなをモットーに掲げています。聖書のみ言葉の中にもこのきずなという言葉がでてきます。

「平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように務めなさい」。エフェソ4:3

このみ言葉は教会のモットーである3つのきずなのうち2番目の教会のきずなに重なります。その方法は平和で結ばれていること、霊によって一致していることです。平和は聖霊の実であり、イエス様が与えると言われたものです。

「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな」ヨハネ14:27

霊による一致というのは、聖霊によって与えられたキリストとの平和が土台となって生まれてくるものです。キリストと深く、また強く平和によって結ばれていくことによって、教会内のお互いのきずなも深まっていきます。教会の頭であるキリストぬきに教会の一致はありえません。

「それで、このキリストによってわたしたち両方の者が一つの霊に結ばれて、御父に近づくことができるのです。従って、あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族であり、使徒や預言者という土台の上に建てられています。そのかなめ石はキリスト・イエス御自身であり」エフェソ2：18～20

父なる神に人が近づく唯一の方法が主なるキリストにつながっていくことです。そのことをここではキリストとわたしたちの霊が一つに結ばれていくことだと書かれてあります。本来、神様に近づくことさえできない存在の罪深い人間が、救い主を通して近づいていくことができる、これは大いなる神秘であり、驚くべき経験です。実際、わたしたちの祈る時、キリストと結ばれているからこそ父なる神様に語りかけることができるわけです。

キリストを信じることによって、どんな人でも同じ聖霊が宿り、その同じ霊が流れているがゆえに一つとなることができます。その瞬間、ユダヤ人であろうと、異邦人であろうと、寄留者であろうと、聖なる神の家族となります。そして一つの聖なる民になることによってわたしたちは父なる神様に近づくことができるようになります。これが教会です。

すべてのかなめ石はイエス・キリストです。そのイエス・キリストによって聖霊の交わりが生まれます。聖霊の交わりはわたしたちを一つとし、それによって教会が教会として真に機能するようになるのです。

「聖書にこう書いてあるからです。「見よ、わたしは、選ばれた尊いかなめ石を、シオンに置く。これを信じる者は、決して失望することはない。」従って、この石は、信じているあなたがたには掛けがえのないものですが、信じない者たちにとっては、「家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となった」第一ペテロ2:6，7

多くの人が信じずイエス・キリストを捨てましたが、その捨てたはずのキリストが人間にとって最も重要な親石となったのです。

「あなたがたは神に選ばれ、聖なる者とされ、愛されているのですから、憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも同じようにしなさい。これらすべてに加えて、愛を身に着けなさい。愛は、すべてを完成させるきずなです」

コロサイの信徒への手紙3章12～14節

聖霊によって一つとさせられると、互いに愛し合い、許し合うようになります。それは聖霊の実であり、その実が現れてくるからです。教会とは本来そういうところなのです。

【月曜日　聖霊はバプテスマによって私たちを結びつける】

「つまり、一つの霊によって、わたしたちは、ユダヤ人であろうとギリシア人であろうと、奴隷であろうと自由な身分の者であろうと、皆一つの体となるために洗礼を受け、皆一つの霊をのませてもらったのです」第一コリ12：13

一つの身体となるため（教会の一員になるため）にバプテスマを受ける人はどれくらいいるでしょうか。多くの場合、バプテスマはイエス様を自分の救い主と信じ、主に従っていきたいと思ってバプテスマの決心をしたことでしょう。しかし、わたしたちが信じた主は、信じた者同士を一つとしたいとご計画されていたことがわかります。それは、わたしたちは遥か昔から神の家族となるように選ばれていたからです。わたしたちは様々なお導きの中でバプテスマにいたったわけですが、それは遥か昔から計画されていたことでありました。それを拒否することもできたわけですが、わたしたちは神様の導きを喜んで受け入れました。その結果、わたしたちは一つの霊を飲ませてもらったのです。聖霊が内に入ってくださったのです。不思議なことです。皆同じ聖霊の神様が内側におられるのです。神様の人類救済の働きは、教会という霊的神の共同体を通しておし進められていきます。そのためにもわたしたちは世界中から集まって一つされています。

「それともあなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたちが皆、またその死にあずかるために洗礼を受けたことを。わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。もし、わたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるならば、その復活の姿にもあやかれるでしょう。わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています」ローマ6：3～7

イエス様と結ばれるためにバプテスマを受けたとき、同時に霊的にキリストと共に葬られその死にもあずかることになりました。それは死から復活し新しい命に生きるようになるためです。新しい命に生きるためには、一度古いわたしに死ぬ必要があったのです。いま、バプテスマを受けてキリストと一つとなり、聖霊を受けるものとなったわたしたちは、新しい命に復活したものとして生きています。その自覚を持って生きることが大切です。そうするなら、肉の命の生と死に必要以上に捕らわれることがなくなることでしょう。

【火曜日　聖霊はみ言葉によって教会を結びつける】

「ここのユダヤ人たちは、テサロニケのユダヤ人よりも素直で、非常に熱心に御言葉を受け入れ、そのとおりかどうか、毎日、聖書を調べていた。そこで、そのうちの多くの人が信じ、ギリシア人の上流婦人や男たちも少なからず信仰に入った。」使徒17：11，12

ここの（ベレア）のユダヤ人たちは聖書を毎日調べていたと書かれてあります。聖霊が働くとき聖書を学びたくなります。聖書の学びは尽きることがありません。聖霊は聖書の真理に目を開かせてくださるので、ますます聖書を知りたくなるのです。信仰とは漠然と神様を信じるのではなく、聖書のみ言葉を学び、そのみ言葉に書かれていることが真実であることを日々の生活の中で体験していくことによってさらに強まっていきます。

「イエスは、御自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「わたしの言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である。あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」ヨハネ8：31，32

聖書のみ言葉にとどまるということが大切だと書かれてあります。これはみ言葉を単に読むだけで終わってしまうのではなく、み言葉がわたしたちの生き方に大きな影響を与え、わたしたちがみ言葉に書かれているように生きることを意味しています。聖霊はみ言葉にとどまり、み言葉に生きたいという思いをわたしたちに授けます。そして、聖書のみ言葉により、徐々に真理に目が開かれるようになります。すると、その真理がわたしたちを自由にするのです。

真理とはイエス・キリストのことです。すなわち、み言葉によって真理に目が開かれるとは、イエス・キリストに目が開かれるということです。そしてこのイエス・キリストがわたしたちを自由にするのです。この世の不安や思い煩い、悩み、悲しみなど、ありとあらゆるこの世に属するものからわたしたちを解放し、自由を得させてくださるのです。さらに真理はわたしたちを聖なるものへと作り買えます。み言葉を学び、み言葉に生きる人は聖なる者なのです。

「真理によって、彼らを聖なる者としてください。あなたの御言葉は真理です。」ヨハネによる福音書/ 17章 17節

「父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります。」ヨハネによる福音書/ 17章 21節

主の御心はわたしたちが一つとなることですが、聖霊は聖書へと私たちの目を向けさせ、み言葉を原則として生きるように導いています。そこにとどまる限り、わたしたちは一つなのです。

【水曜日　聖霊は信仰と教理において教会を結びつける】

教会の中に異なる信仰、異なる教理があれば混乱と分裂を引き起こすだけです。多様性を認めつつも、教会は常に一つです。

「体（教会）は一つ、霊は一つ…一つの希望…主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ、すべてのものの父である神は唯一…」エフェソ4：4～6

同じ教会員でも能力の違いはもちろん、意見の相違もあることでしょう。しかし、それが必ずしも一致を妨げるわけではありません。互いを愛し合い、認め合い、尊敬し合うなら、一致は可能です。霊は一つとあるように、同じ聖霊が内におられるのに、どうして仲たがいが起こり得るでしょうか。もし分裂が起こるとすれば、その内におられる聖霊の神様を悲しませることになるでしょう。

【木曜日　聖霊は宣教と奉仕において教会を結びつける】

2:4 すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話しだした。 2:5 さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、2:6 この物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あっけにとられてしまった。 2:7 人々は驚き怪しんで言った。「話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。2:8 どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。2:9 わたしたちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者がおり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、2:10 フリギア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリビア地方などに住む者もいる。また、ローマから来て滞在中の者、 2:11 ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もおり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」使徒2:4～11

初めて前の雨が教会に降ったとき、そこにいた人々は聖霊に満たされて、聖霊が語らせるままに様々な国の言葉で神様を賛美し始めました。この出来事は周囲の人たちを大変驚かせることになりました。ここからわかることは、民族や国を超え、どのような宗教的な背景があったに関わらず等しく聖霊が下ると神様を賛美せずにはおれなくなること。そして聖霊が下ったことが周囲の人々にとって神様が生きておられることの印となったことです。

初代教会は迫害のただ中にあって小さく、弱い人々の集まりでしたが、聖霊による一致によって大きな力強い集団へと変貌していくことになります。聖霊は宣教と奉仕において教会を強く結びつけて、彼らを究極の一致へと導いていきました。

「信者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、財産や持ち物を売り、おのおのの必要に応じて、皆がそれを分け合った。そして、毎日ひたすら心を一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。」使徒2:44